

あらゆる差別に断固反対 人権を守る取組を強化

2023年度第一回人権啓発推進担当者会議を開催



東京 清掃
労働組合
千代田区飯田橋3-9-3
TEL (3237) 9995
1部20円
編集責任
企画・総務局
萩原 崇氏

わが組合の綱領

- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

7月29日(土)、2023年度第一回人権啓発推進担当者会議を日本教育会館で開催しました。昨年度は、戦争体験者の白石さんをお招きして東京大空襲の実相を講演していただき、2回目は、DPI日本会議の白井さんをお招きして障害者本人からの視点や障害者権利条約締結などの幅広い講演をしていただき、平和や人権に関する学習を直接学ぶ機会となりました。

今回は、無実の死刑囚・梶田厳さんが、今年3月に再審が決定したこと、梶田事件の長い闘いと今後の取組について、学びを深めてきました。

「梶田事件」は、1966年6月に静岡県清水の30歳男性が、無実の死刑囚として執行された事件です。梶田さんは、57年にも及ぶ不屈の闘いが、再審開始の決定により、ようやく実を結ぶ時期にきています。

今回の講師には、この長い闘い、冤罪事件をフィルムに残し続けてきた、映画監督の金聖雄(キム・ソンウン)監督をお招きし講演していただきました。

金監督は、今回の我々の学習のために、この間の映像をまとめた映像を訴え続けてきた梶田厳さんの長い闘いと、弟の無実を誰よりも信じ、誰よりもそばに寄り添ってきた、実の姉・ひで子さんを中心とする映像は、本当に何にも代えがたいものを感じました。

映像の中で、姉のひで子さんは、どんな状況でも笑顔でいる場面が多く感じました。例えばこの間の闘いで、厳しい判決が出た時でも、想定外の出来事があった時でも、常に笑顔を見せていました。しかし、本当は誰よりも苦しく、誰よりも怒りが込み上げていたことだと思えます。だからこそ、余裕を感じさせる笑顔だったのだと思います。

金監督は、映像の補足として、今後の最大の争点になり得る「赤く血に染まっ仲間とともに人権交流を深めよう」

金監督は、映像の補足として、今後の最大の争点になり得る「赤く血に染まっ仲間とともに人権交流を深めよう」

金監督は、今回の我々の学習のために、この間の映像をまとめた映像を訴え続けてきた梶田厳さんの長い闘いと、弟の無実を誰よりも信じ、誰よりもそばに寄り添ってきた、実の姉・ひで子さんを中心とする映像は、本当に何にも代えがたいものを感じました。

映像の中で、姉のひで子さんは、どんな状況でも笑顔でいる場面が多く感じました。例えばこの間の闘いで、厳しい判決が出た時でも、想定外の出来事があった時でも、常に笑顔を見せていました。しかし、本当は誰よりも苦しく、誰よりも怒りが込み上げていたことだと思えます。だからこそ、余裕を感じさせる笑顔だったのだと思います。

金監督は、映像の補足として、今後の最大の争点になり得る「赤く血に染まっ仲間とともに人権交流を深めよう」

金監督は、映像の補足として、今後の最大の争点になり得る「赤く血に染まっ仲間とともに人権交流を深めよう」

金監督は、映像の補足として、今後の最大の争点になり得る「赤く血に染まっ仲間とともに人権交流を深めよう」

金監督は、映像の補足として、今後の最大の争点になり得る「赤く血に染まっ仲間とともに人権交流を深めよう」

金監督は、映像の補足として、今後の最大の争点になり得る「赤く血に染まっ仲間とともに人権交流を深めよう」

清掃・人権交流会

第25回総会を開催

第一回人権啓発推進担当者会議終了後、東京清掃労働組合の自主的交流組織である清掃・人権交流会の「第25回総会」を開催しました。2022年度の活動の中では、コロナ禍によって3年間も開催ができなかったフィールドワークが、感染

対策を図りながら2回も開催できたことは、一年を振り返る中で大きな活動収穫でありました。フィールドワークは、清掃・人権交流会の活動の中でも大きな柱と位置付けられており、「生きた学習」の根幹であると考えています。

対策を図りながら2回も開催できたことは、一年を振り返る中で大きな活動収穫でありました。フィールドワークは、清掃・人権交流会の活動の中でも大きな柱と位置付けられており、「生きた学習」の根幹であると考えています。

対策を図りながら2回も開催できたことは、一年を振り返る中で大きな活動収穫でありました。フィールドワークは、清掃・人権交流会の活動の中でも大きな柱と位置付けられており、「生きた学習」の根幹であると考えています。

対策を図りながら2回も開催できたことは、一年を振り返る中で大きな活動収穫でありました。フィールドワークは、清掃・人権交流会の活動の中でも大きな柱と位置付けられており、「生きた学習」の根幹であると考えています。

あらためて『平和』を誓う

戦争犠牲者追悼、平和を誓う8・15集会に参加

8月15日(火)、今年も終戦の日を迎え、千鳥ヶ淵戦没者墓苑ではフォーラム平和・人権・環境が主催する戦争被害者追悼集会が開催されました。多くの一般の方が献花に訪れる中、平和を願う労働組合関係者、各級議員や市民団体関係者など、多くの参加者が結果し、東京清掃からは四役をはじめ退職者会の方も参加しました。

集会の冒頭では12時に合わせて全員で黙とうし、誓いのことばとして5名の方から戦争なき平和な世界の実現にむけて話がありました。主催者

集会の最後は、押田会長のパワフルな団結がらうで、総会は無事に終了しました。参加された仲間のみなさん、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。



献花する多田委員長

(萩原 崇氏)

特別にまとめた映像を視聴

多田委員長の来賓あいさつ

講演いただいた金聖雄監督